

大垣市議会議員 種田昌克 活動報告

「はなしの種」 Vol.1



発行：おいだ昌克後援会
事務所：大垣市二葉町 8-6-1
TEL/FAX：0584-77-2288
ホームページ：https://oida-masakatsu.jp/
E-mail：info@oida-masakatsu.jp



ごあいさつ

このたび、4月の市議会議員補欠選挙におきまして当選させていただきました。ここに改めて御礼申し上げます。

市民の皆さまの立場に立ち、ご期待に応えられるよう、そして、大垣市がより安全・安心で住みやすいまちになるように精いっぱい努力してまいります。

今後も地域のみなさま方のご支援、ご鞭撻を、どうかよろしく願いいたします。

地域のこどもたちが「こども農園」で サツマイモの苗を植えました



長沢町地内で、地元の方から畑をお借りし、子どもたちと一緒に地域の方にサツマイモの植え方を教えていただきました。サツマイモの苗は、横向きに植えなければならないことを初めて知りました。

秋の収穫がいまから
楽しみです。



種田昌克の議会報告と一般質問

令和3年第2回定例会（2021.6.14）

「飛び出す市役所の実現」について

Q 「飛び出す市役所」というフレーズに、市民の期待は大いに高まっており、市長も「市長自らや担当者がどンドンと、いろんな場所に飛び出して行って、市民の皆さまの声をしっかりと聴いて、それを市政に反映してまいりたい」と述べられています。新市長らしい新たな市民との対話方法、対話の場の創出について、どのように検討されていますか。

A ★市役所を飛び出して、さまざまな場所に伺い、お聞きしたご意見等を政策に生かすことで、市役所が市民の皆様にとって身近な存在であることを実感していただきたいと考えている。市民一人ひとりの意見に耳を傾け、開かれた市政を目指し取り組んでいきたい。



POINT

市と市民がコミュニケーションをはかり、対応することによって、より多くの方に、地域社会や市政が「ひとごと」ではなく、「自分ごと」であると、捉えていただけるのではないかと思います。

「デジタル社会における避難所運営等」について

Q 国は、自治体の行政手続きのオンライン化を加速させるため、「自治体DX計画」を策定。本市は、日経グローバル「市区町村電子化推進度ランキング」で全国で56位。東日本大震災発生時に、1週間で設置された避難所は、2,000か所以上にのぼり、避難所運営は困難を迫られたという教訓から、災害発生時に、避難状況などを効率的に把握し、被災者支援を迅速に行うためには、デジタル化の推進が必要不可欠だと考えます。支援業務を行う職員やボランティアの人数にも限界がある中で、たえず出入りする避難者の、正確な集計を行うことは、非常に困難な業務です。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、今後の災害発生時には、避難所の収容人数の大幅な見直しと、分散避難が必要になるなど、新たな課題も生じています。多くの避難所が開設された場合に、どの避難所にどれくらい人員や物資を配置するべきか判断する必要に迫られると思います。こうした多忙な業務にDXを生かすことにより、省力化を実現できるのではないかと思います。今後の避難所等におけるデジタル技術の活用方法についてお伺いします。

※DX…デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）。スウェーデンのウメオ大学エリック・ストルターマン教授が2004年に提唱した概念。「デジタル技術が浸透することで人間の生活のあらゆる面で引き起こす、あるいは良い影響を与える変化」という意味です。

A ★市が発令する避難指示などの避難情報や、避難所開設状況などの情報をリアルタイムで届けることができる、大垣市LINE公式アカウント「防災情報」を構築し、市民の皆さんの防災意識の向上と防災情報のデジタル化を進めている。

★現状における災害時の避難状況の把握については、避難者が住所や氏名等を避難者カードに記載し、提出していただくことにより把握している。

★また、避難所運営等におけるデジタル技術の活用については、本年度から、デジタル技術を活用した新たな防災施策や防災対策の課題抽出、可能性調査、課題解決に向けた実証実験を行う防災施策デジタル化推進事業を実施し、その中で研究していきたい。



POINT

このように、まだまだ避難所運営は手作業であるのが現実です。デジタル技術を活用し、省力化の実現、円滑な対応、防災力の向上を図っていただきたいと思っております。

「消防の火災対応について」

- ▼6月11日午前6時頃、東町地内の住宅が全焼し、おひとり暮らしの方がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りします。
- ▼この火災について、「消防の到着が遅かった。」「通報してから到着するまでに何十分もかかった」という噂を耳にしましたので、大垣消防組合で事実確認をしてきました。大垣消防組合には、中署（外野）、中分駐所（丸の内）、北署（中川町）、赤坂分署、東分署（安八町）、南分署（浅草）、北部署（池田町）があります。今回の現場は、北署から3.4キロ、東分署から5.3キロに位置しています。
- ▼消防車には、AVM（Automatic Vehicle Monitoring：車両運用端末装置）が搭載されており、機能としては、①火災が発生した際、迅速に目的地へのルート案内する機能、②いつ入電があったか、出動したか、現場到着は何時何分か、いつ放水開始したか、鎮圧はいつかなどをデータとして記録することができます。ちなみに、あとから時間などを修正することが絶対にできないシステムとなっております。
- ▼このシステムの記録を調べてみると、一番早く現場に到着した北署の指令時刻は6時2分、出動6時5分、現場到着6時11分、放水開始6時12分となっております。指令を受けてから3分で出動し、現地には指令を受けてから9分後には到着していることがわかりました。そして何と到着して1分後には放水を開始していました。また、6時15分頃に現場に駆け付けた方の情報では、そのときすでに消防団も到着しており、消火作業に当たっていたとのことでした。本当にありがとうございました！
- ▼今回のような建物火災のケースでは、いろんな話が飛び交うこともあります。しかし、噂話を聞いてそれをまた別の人に伝えると、あたかも真実のように広まってしまいます。流言飛語に惑わされることのないように、コロナに関することもそうですが、しっかりとした情報を得るように心がけてまいりたいものです。



▲AVM(車両運用端末装置)

新水門川排水機場の整備について

▼水門川が牧田川に合流する横曽根地内にある新水門川排水機場（国管理、昭和43年完成）及び、旧水門川排水機場（県管理、昭和25年完成）は老朽化が激しく抜本的な修理が困難であるため、出水時の機能停止が懸念されています。このたび国土交通省が排水機場と堤防の一体的な整備に着手するとの報告がありました。

1. **事業内容**：新水門川排水機場整備（ポンプ φ2.0m×4 台排水能力 47 m³/s）⇒1秒につき47立方メートルの水を排出できます。つまり、25mプール（25m×12m×1.2m=360m³）を、約7.6秒で空にできる排水能力となります。
2. **事業主体**：国土交通省
3. **事業費**：約240億円
4. **事業期間**：令和3年度～令和15年度（予定）
5. **その他**：新水門川排水機場の東に「古宮排水機場」、西に「うのもりさんごう鵜森三郷たんすいぼうじよ排水機場」がありますが、こちらも同時に県湛水防除事業（予算約60億円）により整備されます。



好書好日 Good Life With Books 最近、読んで面白かった本をご紹介します。



『健康で文化的な最低限度の生活』 柏木ハルコ 小学館

▼役所に就職した主人公が、いきなり新人ケースワーカーとして生活保護業務を担当し、生活保護受給者と日々接して人の生死に関わるハードな日常を描いた作品です。題名は、憲法第25条第1項の条文「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」から採られています。▼作品では、子どもの貧困、ホームレス、貧困ビジネスなど重いテーマを扱っていますが、この本に書かれてあることは他人ごとではなく、生々しい現状が伝わってきて、非常に訴えかけられるものがあります。涙する部分もあります。日本の現状を美化せずに、マンガという読みやすい形で描いている良い教科書だと思います。たんなるマンガとは思わずに、ぜひ多くの人に読んでもらいたい作品です。

『大人も知らない!? SDGsなぜなにクイズ図鑑』 宝島社

▼このままだと地球があぶない！いまの子どもたちが大人になったとき、地球はどうなっているのでしょうか？いま世界は、たくさん問題を抱えています。貧富の差はどんどん広がり、海はプラスチックで汚れ、異常気象により災害が増え、戦争も差別もなくなりません。いまが幸せだから良いのでしょうか？でも、そのツケは、自分たちの子孫に回すこととなります。人間がこのままの暮らしを続けていくと、地球も私たちの未来も取り返しがつかないことになってまいります。では、どうしたらいい？そうした問題を解決するための約束がSDGsです。本書は、小学高学年向けに書かれたものだと思いますが、SDGsに関心がある大人にも最適です。クイズを解きながら楽しく学ぶことができます。

※SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。発音は、SDGs（エス・ディー・ジーズ）です。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。日本も積極的に取り組んでいます。

